

# 「ユリの栽培」



企画営業課  
菅田 慎哉

ユリは香りの良さに加えて、その豪華さと気品を兼ね備えたまさに花の女王であり、多くの方に親しまれています。今月は、植え付け時期を迎えている「ユリ」の紹介です。

## ●品種

ユリは品種間交配が進み、数多くの花色や草姿が楽しめます。品種は、大きく分類すると次の2種別に分かれます。

スカシユリ系交配種は「アジアンテック・ハイブリット」と呼ばれ、赤・黄・オレンジ等の原色に近い色合いが人気です。

もう一つの大きな系統であるカノコユリ系の交配種は、「オリエンタル・ハイブリット」の名前で多くの方に知られています。品種や色合いも豊富で、様々な用途で使用されています。この他にもテッポウユリ、オニユリ、ササユリ、ヒメユリ等があります。

## ●栽培のポイント

ユリは、種類や品種によって栽培方法が異なります。球根を購入した際に付属の栽培説明書を読み、種類や品種の確認を行いましょう。また、植え付け用の球根は乾燥させないように管理します。球根や根が乾燥すると、定植後の生育に大きく影響しますので注意が必要です。

## ●植え付け場所

日当たり、水はけの良好な場所を選びましょう。十分に日照を受けることで丈夫に育ち、花立ちも良くなります。水はけの悪い場所は、生育不良や根腐れを起こす原因となりますので避けましょう。花壇や花畑に植え付ける場合は一段高くし、通路にも雨水などが溜まらないようにする

工夫が必要です。

また、植木鉢やプランターを使用する場合は、必ず水はけ用の穴の開いたものを選びましょう。

## ●土作り

良い土とは肥沃で通気性に富み、適度な保水性がある土です。湿ると粘り過ぎ、乾くと固まる土などには、通気性を持たせるために、たい肥や腐葉土を混ぜると土質が改善されます。

## ●よい土とは通気性のよいこと



通気性のよい土は微生物の働きもよく、肥料も分解し、根もよく呼吸し、よく育つ

## ●施肥

植え付けの10日前に完熟たい肥を十分にすき込んだ後、緩効性肥料を1平方メートル当たり100グラム程度施用しましょう。追肥は芽が出る3月～4月頃に1平方メートル当たり100グラムの緩効性肥料を施用しましょう。

## ●植え付け

購入した球根は、速やかに植え付けましょう。長く手元に置いておくと球根や根が乾燥し傷んでしまいます。

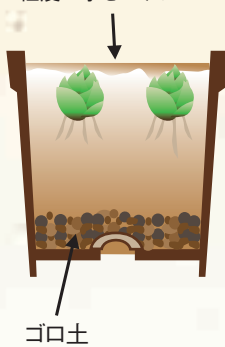
植え付けの深さ、間隔は種類や球根の

大きさによって異なりますが、株間は15～20センチ程度、植え付けの深さは球根の高さの3～4倍程度を目安に植え付けましょう。

鉢またはプランター等の限られた土で育てる場合は、有効に根を張らせるためにあまり深く植えず、球根の頂部が軽く土に隠れる程度とします。植え付け密度も観賞を優先させ、やや密に植える事をおすすめします。

## ●球根の鉢植え

球根の上部がかくれる程度に水をかける



ゴロ土

## ●掘り上げ

掘り上げは3年に一度、11月～12月に球根の充実具合をよく確認して行いましょう。掘り上げてから定植までの球根の管理についても、乾燥させないように注意し、ピートモス等で被い保管しましょう。

## ●病害虫防除

ユリはウイルス病に弱いことから、媒介するアブラムシには注意が必要です。発見した場合は早期防除に努めましょう。生育中は水和剤を散布することが必要となつてきますが、登録内容や使用方法には十分注意のうえ散布してください。